

ヘンデル『アン女王誕生日のためのオード』における詩と音楽

高 際 澄 雄

序

イギリスの王制復古期から名誉革命の後にかけて、音楽の発展は著しかった。チャールズ二世は、イギリスに帰るとすぐにフランス宮廷に倣って宮廷楽団King's Band of Musicを設立し、王室礼拝堂Chapel Royalの音楽家を呼び戻し合唱団を再興した。また共和制の間禁止されていた劇場も再開され、やがて演劇に音楽が加わるようになり、歌劇の試みさえ始まったと言われる¹。こうした発展の様子は、当時のもっとも才能豊かな音楽家、ヘンリー・パーセルHenry Purcellの祝典オードの作曲技法の発展の様子を追うことによって、確認することができる。現存するパーセル作曲の24曲の祝典オードは、その第1作の1680年から最後の1695年の15年の間に、著しい進歩を遂げ、ヨーロッパのどの国にも劣らない、個性豊かな音楽世界を作りあげたのである²。

だが、イギリスにとって不幸なことに、その進歩の中心的存在だったパーセルが、1695年11月21日に36才の若さで急逝してしまった。その後、パーセルの師ブローヤパーセルの弟のダニエル・パーセルが後を継ぐが、さらにイギリスの音楽が大きな飛躍を遂げるのは、ドイツ・ザクセンの生まれで、ハノーファー選帝公の音楽監督であったジョージ・フリデリック・ヘンデルGeorge Frideric Handelがロンドンに居を定め、本格的に音楽活動を開始してからであった。では、ヘンデルはどのような音楽をイギリスにもたらしたのであろうか。本論では、イギリスで音楽活動をはじめたまだ間もない1713年に、当時のイギリスの君主であったアン女王のために作曲した、誕生日のためのオードを調べてみたい。

第1節 作曲の経緯

すでに述べたように、王制復古期以降、宮廷の祝典ではオードがしばしば演奏された。名誉革命後は、ウィリアム三世とメアリー二世の共同統治という珍しい形態でイギリスに君主が2人存在することとなり、しばらく君主の誕生日が年に2回

祝われることとなった。この2回の誕生日のうち、メアリー女王の誕生日はパーセルが作曲を担当することとなり、1689年より1694年に至るまでの6回6曲の祝典オードが残されている。

しかしアン女王の誕生日のオードについては、女王の妊娠や病気のため、定期的に誕生日を祝えず、これまでのように桂冠詩人がオードを作り、王室楽長が作曲する慣習が崩れたのではないか、そしてこの慣習崩壊に乗じ、ヘンデルが誕生日のオードを作曲したのではないかと推測されている³。

ヘンデルは、1709年に滞在中のイタリア・ヴェネチアで歌劇『アグリッピーナ』の公演により大成功を収め、やがてドイツのハノーファー選帝公に音楽監督として召し抱えられた。1710年に許可を得てロンドンを訪れ、1711年に歌劇『リナルド』の公演を行い、大成功を収める。その後、一時ハノーファーに戻ったが、ふたたびロンドンを訪問して、そのままこの町に住み続け、やがて1714年に主君がイギリス国王となってからは、イギリスの音楽界での活動に没頭することとなる。

アン女王の誕生日のオードは、その歌詞にユトレヒト和平条約が言及されているために、1713年のアン女王の誕生日のために作曲されたのだらうと考えられている。女王の誕生日は2月6日であり、その時女王は48才であった。歌詞は、アディソンが『スペクテイター』でその詩の技量を褒め称えた、アンブローズ・フィリップスAmbrose Philipsが書いたと言われている⁴。作品は、7連からなり、1連が6行で、各連の最後の2行は、すべて繰り返してである。1行が弱強4歩格のホラティウス風オードである。そのオードを表1のように構成して、一つの作品を作り上げた⁵。以下、楽曲ごとにその内容を見てみたい。

第2節 楽曲の分析

第1曲は、いきなり歌曲で始まる。これは、パーセルにはなかった開始である。パーセルは現存する祝典オード24曲すべてを、器楽によるシン

フォニーで開始した。ところが、ヘンデルはそのシンフォニーを省略し、いきなり歌曲によって作品を始めたのである。

しかし、第1曲の序曲的性格は、そのゆっくりとした速度に現れている。歌詞は、原詩第1連の最初の4行が使われている。

Eternal source of light divine

With double warmth thy beams display

And with distinguish'd glory shine,

To add a lustre to this day.

神々しい光の永遠の源太陽よ、

二倍の強さでその光を放ってください。

そして特別の明るさで輝き、

この日にきらめきを添えてください。

太陽に呼びかけたこの開始部は、まるで日の出を思わせるゆっくりとした弦楽の和音で始まる。やがて始まるカウンターテナーによる歌は、原詩をつぎのように拡大する。ここで、下線を施した箇所は、メリスマ唱法によって歌われる部分である。(以下、下線はすべてメリスマ唱法を表している。)

Eternal source, [Tr]

Eternal ******[Tr] source] of light divine [Tr]

With double warmth thy beams display [Tr]

******[Tr] With double warmth thy beams display]

And with distinguish'd glory shine,

And with distinguish'd glory shine,

To add a lustre to this day. [Tr]

And with distinguish'd glory shine,

To add, ******[Tr] to add a lustre to this day][Tr].

上記で、[Tr] の記号は、オブリガート・トランペットが演奏される箇所を示している。第1行では、テナーの旋律を全く模倣する。その繰り返しでは、音が重なり、対位法的な書法となっているので、これ以下の記述に合わせて、******の記号によって、その書法を示した。] の記号は、対位法的な書法の終わりを示している(以下、同じ)。この行では、後半は、再び歌のあとにオブリガート・トランペットが旋律を模倣する。次の行も同じで

ある。続いて、再び対位法的な書法となり、歌とトランペットの旋律が重なり合う。つぎの行にいくと、トランペットの演奏はなくなる。しかし、つぎに再び行のあとに旋律が繰り返され、一行を置いて対位法的な書法となる。最後に、オブリガート・トランペットは旋律を模倣しながら高音に移り、曲を締めくくる。

このように、歌とトランペットの旋律とが響き合い、絡み合いながら誕生日の夜明けの情景を描き出しているところに、この楽曲の特徴がある。作曲家としての鮮やかな手法が見事に示されていると言えよう。

第2曲の原詩には、第1連の最後の2行が用いられている。これは全7連のすべてにリフレインとして用いられる表現である。

The day that gave great Anna birth,

Who fix'd a lasting peace on Earth.

地上に永続的な平和を打ち立てた

偉大なアン女王が誕生された日に。

曲は、ハープシコードとチェロの4拍子の跳躍的な演奏から始まる。やがて、カウンターテナーが原詩をつぎのように拡大して歌う。

The day that gave great Anna birth,

Who fix'd a lasting peace on Earth, a lasting peace,
a lasting peace on Earth.

A lasting, a lasting, lasting peace, a lasting, lasting
peace, a lasting, lasting, a lasting, a lasting peace
on Earth.

つまり原詩を一通り歌った上で、アン女王の確立した平和が永続的である、と強調するように歌われるのである。伴奏は、最初通奏低音だけであるが、やがてオーボエ、次にトランペットが加わり、最後に弦楽が加わって全奏による活発な演奏になって、合唱が入ってくる。合唱部の展開された歌詞は次の通りである。

******The day that gave great Anna birth

******Who fix'd a lasting peace on Earth,

******The day that gave great Anna birth

**Who fix'd a lasting peace on Earth, a lasting, a
 lasting, who fix'd a lasting peace,
 ** A lasting, a lasting, a lasting, lasting peace.
 **Who fix'd a lasting peace on Earth,
 ** A lasting, lasting, a lasting peace,
 **Who fix'd a lasting, lasting peace on Earth,
 ** A lasting, a lasting peace on Earth.
 **The day that gave great Anna birth
 **Who fix'd a lasting peace,
 **Who fix'd a lasting peace, a lasting, lasting
 peace.]
 The day that gave great Anna birth
 Who fix'd a lasting peace on Earth,
 **Who fix'd a lasting peace] on Earth,
 A lasting, a lasting peace, a lasting, lasting peace
 on Earth.
 The day that gave great Anna birth
 **Who fix'd a lasting,] lasting peace on Earth.

ここにおいては、四声の対位法が主となり、激しい推進力が生み出される。やがて、和声法の部分に移り、/The day/ that/ gave/ great/ Ann/ birth/の
 ように、単語ごとに切られて歌われ、強調される。最後に一部対位法が現れるが、最終的には和声法により、地上における永続的な平和が強調されて曲を結ぶ。

第2曲は、ヘンデルの作曲家の技量がいかになく発揮された楽曲である。パーセルも対位法は使ったが、このように圧倒的な力を見せつけることはなかった。このような対位法の使い方は、ヘンデルの生まれたドイツの伝統に由来するものであろう。ブクステフーデや大バッハのオルガン曲に見られるような激しい推進力が、この合唱のうちに見て取れる。これは、オラトリオにしばしば使われたハレルヤコーラスの予兆であり、ヘンデルの特質の一つといえるものである。第一曲の静けさと好対照をなす力にあふれた楽曲となっており、極めて印象深い。

第3曲は、オーボエを主体としたやや暗いリトルネロで始まる。やがて、ソプラノが歌い出すが、原詩は次のようである。

Let all the winged race with joy

Their wonted homage sweetly pay,
 Whilst tow'ring in the azure sky
 They celebrate this happy day.
 翼をもつ天使たちすべてに喜びをもって
 うやうやしく心からの礼拝をさせなさい。
 青い空に天高くまで集まり
 彼らはこの幸せな日を祝うのだ。

実際に歌われる歌詞の展開は、以下のように単純である。

Let all the winged race with joy
 Let all the winged race with joy
 Their wonted homage sweetly pay,
 Their wonted homage sweetly pay,
 Whilst tow'ring in the azure sky
 They celebrate, they celebrate this happy day.

しかし、ここで前曲と異なるのは、リフレインの2行がこの音型をそのまま受け、合唱によって連続して歌われることである。展開はつぎのようである。

The day that gave great Anna birth,
 Who fix'd a *lasting, who fix'd a lasting] peace on
 Earth.
 The day that gave great Anna birth,
 Who fix'd a **lasting] peace on Earth.

これを見れば分かるように、繰り返しとメリスマ唱法を主とし、わずかに対位法を加えた書き方となっている。

この楽曲では、オーボエの演奏する音型が決定的に重要である。この音型によってソプラノの独唱部分と合唱部分が統一されているのである。

第4曲は、つぎの原詩を歌詞としている。

Let flocks and herds their fear forget,
 Lions and wolves refuse their prey
 And all in friendly consort meet,
 Made glad by this propitious day.
 羊と牛たちに恐怖を忘れさせ、
 獅子と狼たちに獲物を拒ませなさい。

そして彼らすべてを友愛にあふれた集会に呼び
寄せなさい、
この幸多き日を喜ぶために。

音楽は、歌詞にふさわしく、跳躍するような3
拍子のオーボエとバイオリンの演奏から始まる。
やがてカウンターテナーが、原詩をつぎのように
拡大して歌う。

Let flocks and herds their fear forget,
Lions and wolves refuse their prey
Lions and wolves refuse their prey
And all in friendly consort meet,
Made glad by this propitious day.
And all in friendly consort meet,
Made glad, made glad by this propitious day.

展開の方法は単純といえる。第2行及び対をな
す第3-4行をそれぞれ繰り返しているに過ぎない。
しかし、音楽としてはそれほど単純ではない。
メリスマ唱法で歌われるwolvesおよびglad
は、2回目に歌われる時、第1回目よりさらに長
く延ばされて歌われるのである。これで繰り返
しの単調さが破られている。楽器も、前半はオー
ボエがオブリガート楽器としてカウンターテナー
を綾取るが、後半はわずかに弦楽器が現れるだけ
で、基本的には通奏低音による伴奏に変わる。こ
のように第4曲は、単純な構成でありながら、そ
の味わいづけにおいて、巧みな変化が加えられた
楽曲となっている。

第5曲は、リフレイン部分が第2曲と同じよう
に独立したものである。オルガンの和音が1回奏
されると、和声法による合唱が始まる。その展開
は、次に示されているように、途中までは単なる
繰り返しのように見える。

The day that gave great Anna birth,
Who fix'd a lasting peace on Earth.
The day that gave great Anna birth,
**Who fix'd a lasting, who fix'd a lasting, the day,
the day, peace on Earth,] peace on Earth.

しかし、繰り返される第2行は、まずカウ

ターテナーが独唱で歌い、それを追うようにソプ
ラノが歌って、簡単な対位法となる。この二人の
歌手に合唱がthe day, the dayと歌いかけて大きく
広がり、やがてpeace on Earthで和声法により結ば
れる。このような単純さは、第4曲の単純さと呼
応していると言えるであろう。

第6曲は、急激な弦の演奏で開始する。原詩は
つぎのようである。

Let rolling streams their gladness show
With gentle murmurs whilst they play,
And in their wild meanders flow,
Rejoicing in this blessed day.
逆巻く流れに喜びを示させなさい、
戯れている間はやさしいせせらぎで、
やがて激しく蛇行しながら流れ、
この祝福された日を喜ばせなさい。

この歌詞を、カウンターテナーとバスの二重唱
がつぎのように展開する。

**Let rolling, rolling streams, let rolling streams,
let rolling, rolling streams, let rolling streams
their gladness show,] their gladness show, their gladness
show.
**With gentle murmurs, with gentle murmurs]
whilst they play,
**With gentle murmurs, with gentle murmurs]
whilst they play,
**With gentle murmurs, with gentle murmurs]
whilst they play,
**And in their wild meanders, and in their wild
meanders] flow,
**Rejoicing, rejoicing] in this blessed day.

展開は、繰り返し、メリスマ唱法、および対位
法に基づいている。原詩には矛盾がある。Roll-
ing streamsと言いながら、gentle murmurと言っ
ているからである。しかし、音楽はむしろ急流を表
す音型を保っているのもので、破綻はないと見るべき
であろう。

リフレイン部分は、第3曲と同じく、続けて歌
われる。展開はほとんどないが、変化が無いわけ

ではない。

The day that gave great Anna birth,
Who fix'd a lasting peace on Earth, a lasting peace,
a lasting peace, who fix'd a lasting peace on
Earth.

つまり、第2行に繰り返しが行われるのである。しかし、すべてが和声法で書かれているために、短く終わる。このように第6曲の主体は、カウンターテナーとバスの二重唱にあり、合唱は終結部として使われていると見るべきであろう。楽曲全体として見れば、活気あふれる曲となっている。

第7曲は、一転してゆるやかな速度の穏やかな調べへと変わる。ゆっくりとしたオーボエの演奏に導かれて、ソプラノがつぎの詩を歌い出す。

Kind Health descends on downy wings,
Angels conduct her on the way.
T'our glorious Queen new life she brings,
And swells our joys upon this day.
やさしい健やかさの女神が柔らかな翼で舞い降り、
天使たちが道案内をする。
私たちの光輝あふれる女王に新しい命を女神は
もたらし、
私たちの喜びをこの日に増やしたのだ。

この歌い出しはやがてカウンターテナーが加わることで、複雑に展開される。この展開を歌い出しから記すと次のようになる。

Kind Health descends on downy wings,
Angels conduct, conduct her on the way.
Kind Health descends on downy wings,
Angels conduct, conduct her on the way.
**Kind Health descends, kind Health descends on
downy wings, on downy wings,]
**Angels] conduct her on the way, **conduct her
on the way, conduct on the way,] conduct her on
the way.
Kind Health descends on downy wings

Angels conduct, conduct her on the way.
T'our glorious Queen new life she brings,
**And swells, and swells our joys] upon this day.
Kind Health descends on downy wings,
Angels conduct, conduct her on the way.
Kind Health descends on downy wings,
Angels conduct, conduct her on the way.
**Kind Health descends, kind Health descends on
downy wings, on downy wings,]
**Angels] conduct her on the way, **conduct her
on the way, conduct on the way,] conduct her on
the way.
Kind Health descends on downy wings
Angels conduct, conduct her on the way.

展開の方法は、ソプラノとカウンターテナーの交替による繰り返しと対位法の使用によっている。めずらしくメリスマ唱法が用いられていない。形式としては、第3-4行を中心としたダカーポ形式である。ヘンデル音楽の特質の一つである優美さが前面にあらわれている美しい楽曲となっている。

第8曲は、第2曲や第5曲のように、リフレインが独立したものである。曲は力強いチェロの演奏で始まる。やがて、カウンターテナーが歌い始め、そこにソプラノが加わる。展開は次の通りである。

カウンターテナー・ソプラノ二重唱

The day that gave great Anna birth,
Who fix'd a lasting peace, a lasting peace on Earth.
The day that gave great Anna birth,
Who fix'd **a lasting peace, a lasting peace, a
lasting peace on Earth.]
A lasting peace, a lasting peace on Earth.
合唱
The day that gave great Anna birth,
Who fix'd a lasting peace, a lasting **peace, the day
that gave great Ann birth on Earth.]
Who fix'd a lasting **peace, the day that gave great
Anna birth,]
Who fix'd a lasting **peace, the day that gave great
Anna birth,]

Who fix'd a lasting **peace, the day that gave great
Anna birth,]
Who fix'd a lasting peace on Earth,
Who fix'd a lasting peace on Earth.

ここでの特徴は、メリスマ唱法で歌われる部分がきわめて長いことである。二重唱はやがてたがいに旋律をからませて合唱部に続いていく。合唱の構造は単純であり、最後の行が何度も繰り返されるものであるが、和声法と対位法が対比されているところが特徴である。しかし最後には和声法になって終わる。

第9曲は、跳躍するような弦楽器の演奏で始まる。この楽曲で使われる原詩は次の通りである。

Let Envy then conceal her head,
And blasted Faction glide away,
No more her hissing tongues we'll dread,
Secure in this auspicious day.
妬みの女神は顔を隠させ、
分派抗争の病は追い出そう。
もはや私たちは彼女の軋み音を出す舌を恐れず、
この幸多き日に安んじよう。

この曲をバスが次のように展開しながら歌う。

Let Envy then conceal her head, let Envy then conceal her head,
And blasted Faction, and blasted Faction, and blasted Faction glide away,
And basted Faction glide away,
And blasted Faction, and blasted Faction, and blasted Faction glide away,
And blasted Faction glide away,
No more her hissing tongues we'll dread,
Secure in this auspicious day.
No more her hissing tongues we'll dread,
Secure in this auspicious day.

ここでは、バスもまた3拍子の跳躍的な音型を歌いながら、歌曲を進めていく。メリスマ唱法がきわめて印象的である。やがて、リフレインの部

分に入るが、ここでも、弦楽伴奏は最初の跳躍的な音型に戻る。リフレイン部分の展開は次のとおりである。

合唱

The day that gave great Anna birth,
Who fix'd **a lasting peace, who fix'd a lasting peace on Earth.]
A lasting peace, a lasting peace, who fix'd a lasting peace on Earth.

展開方法は単純だが、伴奏の特徴的な音型で、楽曲自体がダカーポ形式に似た統一性をもつことになった。第9曲は、ややユーモラスな音調とともに忘れがたい楽曲となっている。

第10曲の原詩は次の通りである。

United nations shall combine,
To distant climes the sound convey
That Anna's actions are divine,
And this the most important day!
団結した民は力を合わせ
遙かな場所まで知らせを届ける。
アン女王の働きは神のもの、
今日はこの上なく大切な日、と。

この原詩がカウンターテナーと合唱によって次のように展開される。

カウンターテナー独唱

United nations shall combine, united nations shall combine,
To distant climes the sound convey, to distant climes, to distant climes the sound convey, the sound convey,
United nations shall combine,
To distant climes the sound convey

合唱

United nations shall combine, united nations shall combine,
To distant climes the sound convey, to distant climes the sound convey,
To distant climes the sound convey, to distant

climes the sound convey,
That Anna's actions are divine, that Anna's actions
are divine,
And this the most important day ! And this the
most important day !

カウンターテナーはほとんど繰り返しのみで展開する。最後にメリスマ唱法によって合唱に続いていく。合唱になっても、基本は繰り返し、しかも交唱によって展開されている。こうして第10曲は、明快な曲となって、第11曲に休みなく続いていく。

リフレインの歌われる第11曲は、第2曲のように対位法によって大きく拡大されている。

**The day that gave great Anna birth, the day that
gave great Anna birth,

**Who fix'd a lasting peace on Earth, a lasting
peace, a lasting peace on Earth.

**The day that gave great Anna birth, the day that
gave great Anna birth,

**Who fix'd a lasting peace on Earth, a lasting
peace, a lasting peace on Earth.

**The day that gave great Anna birth, the day that
gave great Anna birth,

**Who fix'd a lasting peace on Earth, a lasting
peace, a lasting peace on Earth.

**The day that gave great Anna birth, the day that
gave great Anna birth,

**Who fix'd a lasting peace on Earth, a lasting
peace, a lasting peace on Earth.

The day that gave great Anna birth,

Who fix'd a lasting peace, **who fix'd a lasting
peace on Earth, a lasting, a lasting, lasting
peace,]

The day that gave great Anna birth,

Who fix's a lasting peace on Earth.

こうして第11曲は、第10曲を締めくくるだけでなく、オード全体を力強く締めくくっている。

第3節 パーセルのオードとの比較

ヒックスは、このヘンデルの曲が「パーセルの

誕生日のオードのもっとも価値ある後継作品のひとつであることを明らかにした⁶⁾と書いている。イギリス音楽史を見れば、確かにパーセルとヘンデルはバロック期を代表する作曲家であることは間違いがない。それでは、パーセルのオードとこのヘンデルのオードはどこが似ていて、どこが違うのであろうか。

まず、原詩の扱いは、パーセルもヘンデルも同じだと言ってよいであろう。これは、ヘンデルがパーセルを模倣したことを意味しない。原詩をいくつかの部分に分け、さらに語、句、行を繰り返し、メリスマ唱法によって音節を延ばし、和声法と対位法を対比することによって、展開するという方法は、すでにパーセル以外の作曲家によって広く行われていた。パーセルは、それを巧みに行ったにすぎない。ヘンデルがオードを作曲したとき、すでに28才であった。長い作曲経験から、こうした手法を自家籠中のものとしていたといふべきであろう。

歌手を変えながら、独唱、重唱、合唱で変化を加える手法も、パーセルと同じであるが、この手法も広く行われていたといつてよい。パーセルは、この技法も巧みに使用したのである。

従って、パーセルのオードとヘンデルのこのオードは形式的に類似しているが、それがそのままパーセルの伝統の継承と言うことはできない。

むしろ、比較して明らかになるのは、相違点である。第1に、すでに述べたとおり、現存するパーセルの祝典オードはすべて器楽によるシンフォニーで開始されているのに対し、ヘンデルの『アン女王誕生日のオード』は、シンフォニーを欠いている。なぜシンフォニーを書かなかったかは、推測の域を出ないが、原詩によるのであろう。日の出に言及する第1連の前にシンフォニーを置くより、いきなり第1連の歌曲で始めた方が効果的だと判断したと思われる。実際、第1曲は印象的である。ゆっくりとした旋律で始まり、やがてオブリガート・トランペットがカウンターテナーを美しく綾取るこの楽曲は、このオードの中でも、もっとも印象的な楽曲である。明らかにヘンデルは、パーセルとの差異を強調したといふべきであろう。

構成の外見性もヘンデルのこのオードの特徴で

ある。原詩は、7連すべてに二行のリフレインをもっている。リフレイン2行は、直前に置かれるdayの同格として書かれており、そのdayを説明している。したがって、原詩においては、リフレインが大きな特徴となっているのである。

しかしヘンデルは、上記の分析から明らかのように、第2曲、第5曲、第8曲、第11曲ではリフレインを独立した楽曲とし、第3曲、第6曲、第9曲では、同じ曲の中に組み込んだ。つまり、原詩第1連、第3連、第5連、第7連ではリフレインが独立して扱われ、第2連、第4連、第6連では、リフレインが同じ曲として組み込まれているのである。奇数連で独立させ、偶数連で同じ曲として扱う、というきわめて明確な作曲方針が貫かれているのである。

しかし、このような扱いは、原詩の特徴を生かすことにならない。原詩を読めば、リフレインの繰り返し、文学的工夫として読めるのだが、ヘンデルの音楽においては、リフレインの扱ひ方があまりにも異なるために、リフレインとして把握できない。ほとんど別のものとして作曲されているといっても過言ではない。文学的工夫は音楽として生かされていないのである。

パーセルは、原詩の深い意味を汲み出す天才であった。原詩がたとえ巧みではなくても、その言おうとしているところに深く思いをいたし、詩の失敗したところを見事に補っていた⁷。ところがヘンデルは、音楽の考慮が先行して、原詩を自分の音楽で造形したのである。音楽としては見事である。しかし、果たして原詩のもつ意味が生かされているか、といえ、全体として拡散的で、まとまった意味が伝わる作品となっていない、というべきであろう。ひとつひとつの楽曲は面白いのだが、オードとしての統一性が感じられないのである。ここでヘンデルが行っているのは、音楽的技量の披露である。そのことは、第2曲と第11曲によく表れている。

このリフレインは、パーセルのオードを上回る力と推進力にあふれている。パーセルも後期になると、オードに華麗さを加えていったが、ヘンデルの楽曲には、ドイツ伝統のフーガが用いられており、イギリス的な煌びやかさとは異なる、力の強調が見出される。したがって、『アン女王誕生

日のオード』は、これまでなかったような激しさで終わるのである。これは、すぐに1718年のオラトリオ『エステル』で繰り返されるハレルヤの原型である。そうした意味では、『メサイア』の「ハレルヤコーラス」がもうここに現れているといってもよいであろう。力に溢れたヘンデルの音楽が、ここで見事に示されているのである。

ヘンデルは、パーセルの伝統に立ちながらも、すでに彼の特徴を効果的に示すことに成功したのである。

結び ヘンデルの新しさ

ヘンデルは、次第に英語の深い表現にも、適切な表現を与えるようになる。しかし、この『アン女王誕生日のオード』においては、パーセルの深い原詩理解と表現には至っていないというべきであろう。聴衆はヘンデルの音楽を聴いたとは思っていても、詩の意味を捉え得たとは思わないであろう。詩は、ここではむしろ音であって、意味をもつ言葉ではない、とさえ思える。

パーセルはこの点、まったく異なっている。彼は原詩の意味を深くとらえ、その意味を見事に表現している。パーセルがいつまでもイギリス人の心にとどまるのはそのためである。

しかし、ヘンデルはイギリス人に彼の音楽的技量を見せつける必要があった。その点では、この作品は目的を見事に達しているというべきであろう。聴衆は、ヘンデルの作品に組み伏せられる気持ちに違いない。彼の才能は、イギリス音楽界に君臨するにふさわしいものであったのであり、たとえ深い芸術性を犠牲にしても、その地位にのぼるべく、人々に勝ち誇る必要があった。イギリスの女王の誕生日を祝福するという絶好の機会を与えられて、ヘンデルは巧みにその機会を利用した。その芸術的成長は、このあとに行われるべきものであったと言うべきである。

(本論は、平成18年度科学研究費補助金研究「18世紀イギリスにおける音楽と詩」(課題番号18520171)の成果の一部である。)

註

1. Eric White, *A History of English Opera* (Faber

& Faber, 1983) p. 82. ただし歌劇の試みは共和制時代にすでに行われていたと論じている。

2. パーセルの24曲中、英語歌詞を持つ23曲のオードについては、以下の拙論を参照されたい。

「パーセル最初期祝典オードにおける詩と音楽」(『宇都宮大学国際学部研究論集』第17号、2004年3月) pp. 77-90.

「パーセル初期後半の祝典オードにおける詩と音楽」(宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』第53号、2004年3月) pp. 59-82.

「パーセル後半期初頭の祝典オードにおける詩と音楽」(『宇都宮大学国際学部研究論集』第18号、2004年10月) pp. 55-69.

「パーセル後半期中葉の祝典オードにおけ

る詩と音楽」(『宇都宮大学国際学部研究論集』第19号、2005年3月) pp. 113-126.

「パーセル最後期の祝典オードにおける詩と音楽(上)」(『宇都宮大学国際学部研究論集』第22号、2006年10月) pp. 113-128.

「パーセル最初期祝典オードにおける詩と音楽(下)」(『宇都宮大学国際学部研究論集』第24号、2007年10月) pp. 93-104.

3. Anthony Hicks, *The English Pamphlet of CD Handel Coronation Anthems* (EMI, 2001), p. 6.
4. *Ibid.*, p. 6.
5. 表1は、上記CDの演奏によっている。
6. *Ibid.*, p. 6.
7. 拙論『パーセル後半期初頭の祝典オードにおける詩と音楽』(『宇都宮大学国際学部研究論集』第18号) pp. 55-69. 参照のこと。

曲番	楽曲形態	演奏形態	演奏楽器	演奏時間	対応詩行
第1曲	独唱	カウンターテナー	トランペット、弦楽	3.17	I.1-4
第2曲	独唱 合唱	カウンターテナー	トランペット、全奏	1.01 1.36	I.5-6 I.5-6
第3曲	独唱 合唱	ソプラノ	オーボエ、全奏	1.45 0.50	II.1-4 II.5-6
第4曲	独唱	カウンターテナー	オーボエ、全奏	1.43	III.1-4
第5曲	合唱・二重唱	カウンターテナー ソプラノ	全奏	0.39	III.5-6
第6曲	二重唱 合唱	カウンターテナー バス	全奏	1.39 0.47	IV.1-4 IV.5-6
第7曲	二重唱	カウンターテナー ソプラノ	オーボエ、全奏	4.29	V.1-4
第8曲	合唱		全奏	1.46	V.5-6
第9曲	独唱 合唱	バス	全奏	1.56 0.30	VI.1-4 VI.5-6
第10曲	合唱		全奏	1.27	VII.1-4
第11曲	合唱		全奏	1.51	VII.5-6

表1 『アン女王誕生日のオード』構成表

Poetry and Music in Handel's *Ode for the Birthday of Queen Anne*

Sumio TAKAGIWA

Abstract

Handel composed an ode for the birthday of Queen Anne in 1713. This ode was one of Handel's earliest compositions based on English texts. By analyzing the music and text, it was found that Handel used Purcell's form of the occasional ode, but he introduced some new elements in ode composition, by applying a more mechanical consideration in forming the whole. Handel also composed the ode seemingly to show his musical techniques. Particularly in the second and final movements, his skills of composing fugues are impressively exhibited. While the meaning of the poem is rather neglected, the outward beauty increased, which served Handel's purpose of the composition of this music, to gain reputation as a great musician. This ode of his is not as great as an artistic work as Purcell's occasional odes, but it was a great success, as it showed Handel's great music skills not only to the Royal family, but also to musicians.

(2007年6月1日受理)